

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホーム しらゆり竹田		
所在地	大分県竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	平成24年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は城下町竹田の中心地に位置し、歴史を肌で感じられる環境の中にあります。年間を通じて竹田ならではの、行事や催事が数多く行われており、それが入所の皆さんの楽しみの一つにもなっています。

家庭的な雰囲気の中、入所者様の心に寄り添い信頼しあえる関係作りを心がけて、生き甲斐と喜びを持って暮らしていただけるよう職員一同介護に取り組んでいます。

また、身体の残存機能を生かした体操やレクリエーションを取り入れ身体機能の低下を防ぐと同時に、食事面でも「美味しく健康に」をテーマに旬食材を活用した手作り料理を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)事業所は町の中心部にあり、年間を通して、城下町ならではの行事が多く、利用者の楽しみになっている。
- 2)日用品や食材の買物、会議なども、近くの店を利用している。散歩時の挨拶、お裾分けなど、日常的に地域との交流ができています。
- 3)食事は3食手作りであり、季節ごとの外出や行事も、利用者の好みに配慮した手作り弁当を持参するなど、食べることを楽しめる工夫をしている。
- 4)職員間のチームワークが良く、日常の業務の中での気づき、注意点などを、お互いに何でも言い合える環境ができています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は出来ているが、職員により実践にバラつきが見られる。	折に触れ確認できるよう、理念をカードにして持っている。具体的ケアについて、職員全員でミーティングを行い、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の方と交流の機会を持てるよう、近所を散策し気軽に声を掛け合えるような環境づくりに努めている。	食材や日用品は、ほとんど近所の商店で購入しており、買物や散歩などで日常的に挨拶を交わしたり、お裾分けをしあうなど、地域住民との交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所当時は認知症やグループホームに対する理解を得られなかったが、近隣の方々と接触の機会を持つことにより理解と協力を得られるようになってきた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き利用者の状況報告やグループホームの抱える問題点などを提起し、市の介護保険課、包括支援センター、老人クラブの方々よりアドバイス等をいただいている。	定期的に運営推進会議を開催し、状況報告や意見交換を行っているが、出された意見をサービス向上に具体的に活かすには至っていない。	運営推進会議では、外部評価結果も報告し、出された意見や検討事項は、職員全員で話し合いをもつとともに、その結果を次回の会議で報告し、サービスに具体的に活かしていくことが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の定例会議(ケア会議)に出席し、情報交換を行っている。	認定更新や事故報告、相談事など、市の担当窓口へ出向き、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしない介護を心掛け実践している。但し、夜間は介護従事者が一人である為玄関の施錠をしている。	身体拘束についての勉強会をもち、外部研修の報告を行ったり、具体的な拘束行為について職員全員で話し合い、共有するとともに、その日のケアの振り返りを行うことで、身体拘束のないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会議で虐待防止の意識づけを行っている。		

事業者名: グループホームしらゆり竹田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会は設けていないが、成年後見制度を利用している入所者がいるため、必要に応じて相談、活用をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が不安を抱くことがないよう、十分な説明と疑問に対する返答を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来た際、不安や要望を聞く機会を設けている。	家族などの訪問時に、意見や要望を聴くように努めているが、意見や要望を引き出す工夫や場面作りがされていない。	特に意見や苦情が出されないからよしとするのではなく、何でも言ってもらえるような雰囲気作りや機会を設けるなど、意見を引き出す工夫が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で職員の意見や提案を収集、吟味し運営に活かしている。	月1回の定例会やミーティング時に、意見や提案を聞いている。職員が何でも言い合える、良いチームワークがとれており、出された意見を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が常にやり甲斐と向上心を持って働けるよう、勤務実績に応じ平等に評価している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、能力に応じた研修に積極的に参加するよう促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模連携事業により同業者との研修、交流会の実施が決定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と同じ目線に立ち一人の人格者として尊重し、ゆっくり聞き取り易い言葉かけて優しい雰囲気で見ている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が安心して介護を任せられるよう、あらゆる相談、疑問に耳を傾け要望に応えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況等に応じ、通院、リハビリその他必要とおもわれるサービスの検討を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる範囲のことを手伝ってもらったり同じ目線で物を見たり、会話をしたり、ともに生活をしている実感を味わってもらえるようにしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の施設での生活状況等を家族に知らせ、職員と家族が共通した介護認識を持てるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、昔交流のあった方なども気軽に面会に来てもらえるよう配慮している。また利用者が生活していた場所、家などへ職員と一緒に同行している。	近隣の利用者が多いため、通りがかりに立ち寄り、自宅の方へ散歩に行ったり、なじみの理容室の利用など支援をしている。一人ひとりの生活歴などは、情報の把握と共有が十分でない。	利用者一人ひとりの入居までの人間関係の把握をするとともに、入居後の支援を通して、関係継続の支援につなげていくことが望まれる。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握しトラブルを発生させないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族と連絡を取り合い、必要な助言、アドバイス等アフターフォローを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推しはかり本人にとってどこで誰とどのように暮らすのが最良なのか、家族を交えて検討している。	日々のかかわりの中で、声かけや表情などから、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、家族等と話し合い、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を把握することがその方への理解につながる。本人をはじめ家族や地域の方の力を借りながら継続的に行っている。朝はその日の過ごし方や本人の状態を全員で確認している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じとり本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろのかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	日頃のかかわりの中での情報を職員全員で話し合い、ケアに反映させている。6ヶ月ごとの見直しと毎月のモニタリングも、職員全員で話し合いを行い、家族、本人の思いを反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉エピソード等を記録している。職員の気づきや利用者の状態変化を個別に記録し職員の情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し個別の満足を高めるよう努力している。本人の状態や家族の意向に配慮しながら家族の方への食事の提供なども声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地球資源を把握し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診をしていただき、尚且つ体調異変等があった場合は電話にて状況を説明し医師の指示を仰いでいる。	事業所の協力機関の月2回の訪問診療と、専門医の受診の支援など、家族との連絡、情報の共有ができています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職全ての職員が利用者の状態を詳しく把握し、適切な受診が受けられるよう密に連絡を取り合っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が交替で訪問し、最善の治療や早期退院に向けた情報交換を医療機関と行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と何度も話し合い、利用者・家族の望む終末ケアが出来るようにしている。	事業所で対応し得る終末期のケアについて、職員全員で方針を共有し、本人、家族が安心して納得した最期を迎えられるよう、家族との話し合いを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の講習を受講し終了証の交付を受けている。月1回の会議時に事故、急変マニュアルの話し合いを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力を仰ぎ避難訓練を行ったり、マニュアルを作成し災害時の避難方法について職員全員が共通意識を持っている。	年1回、消防署の協力を得て消火訓練を地域住民とともに実施しているが、利用者を含めた避難訓練は実施していない。	消防署、地域住民の参加のもと実施するとともに、事業所独自で、地域住民の協力を得、利用者も一緒に、日中・夜間を想定した避難訓練の実施が期待される。また、非常用食糧の備蓄などの整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や能力を理解し尊重した対応をしている。その時その時の気持ちに応じて穏やかな声掛けをしている。	個人情報や人格尊重についての研修を実施し、日常的な関わりの中で、互いの言葉かけや対応について、その都度注意をし、誇りやプライバシー確保について確認をしあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のやりたいこと、食べたい物、見たい物など、職員から押し付けることなく本人の意思を尊重するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活リズムを作り急がせることなくのんびりと施設での生活ができるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせて理、美容院の利用支援を行っている。外出時も職員が着替えを手伝い、新鮮な気持ちで出かけられるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事を同時に言葉を交わしながら食べている。また食欲が進むように色取りや盛り付けなど工夫を凝らしている。	その日のメニューは、朝に利用者とは相談して決めている。特に誕生日は本人の好きなメニューを取り入れている。食材の調達も、車いすを活用して、地域の商店と一緒に出かけたり、食事の時間は、職員も一緒にテーブルを囲み、食事が楽しいものになるよう支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や塩分に気を付け野菜を豊富に使ったメニューにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいを実施しており自分でできる方は見守り、出来ない方は職員のケアにより口腔衛生を保持している。		

事業者名: グループホームしらゆり竹田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ使用の方に対しても、日中はリハビリパンツを使用しトイレ誘導を行い自立への意欲を起こさせるよう支援を行っている。	トイレでの排泄を大切にしながら、失禁パンツやパットなどの利用も、本人に合わせて利用している。排泄チェック表の利用と利用者の様子から察知し、身体機能に応じた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ繊維の多い食品を使った献立を考えている。定期的な排便がない方は、便秘薬を使用し排便調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ入浴回数や時間を決めリラックスして入浴してもらえるよう支援している。	入浴は、基本的に週2回と決めているため、利用者ごとの生活習慣や希望に添った支援にはなっていない。	事業所が決めた曜日や時間に合わせるのではなく、これまでの生活習慣や希望に合わせて、入浴ができるよう、工夫が望まれる。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠パターンを把握し夜眠れない人には一日の生活リズムを通し安眠策をとっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し間違いのないように注意して与薬している。医師の指示通り服用できるよう支援し、症状の変化があればその都度医師に相談をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが楽しみ事や出番を見いだせるよう場面づくりの支援を行っている。(週刊誌、テレビ、絵描き、歌、洗濯物たため、お膳ふき、食材の下ごしらえ等)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、近隣訪問、町内行事への参加など希望に応じて出かけられるように支援している。	町内行事への参加や、家族とともに季節ごとに手作り弁当を持って遠出をしたりと、外出の機会を作り、支援をしている。しかし、日常的に外出する人と、外出をしない人がいる。	利用者が事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるよう、本人に合せた移動の配慮をしながら、できるだけ外気に触れる機会を作っていくことが望まれる。

事業者名: グループホームしらゆり竹田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る利用者がいないためお金は施設が預かり、利用者の希望があれば職員と外出時に買い物等をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者からの申し出もなく、電話をしたり手紙のやりとりが出来る状態ではない。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり壁面に季節感のある折り紙や装飾を施している。</p>	<p>共用空間では、調理の音や匂いで、五感が刺激され、装飾や家具の配置などに生活感や季節感があり、居心地良く過ごせる工夫がされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳やソファなど気分に応じて好きな場所で過ごせるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望に応じてテレビやラジカセを部屋に置き楽しめるようにしている。また昔のアルバム、写真などを部屋に置きいつでも見れるようにしている。</p>	<p>それぞれの居室は、使い慣れた寝具や小物、思い出の写真などが持ち込まれ、落ち着いて過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>要所への手すりの設置、浴槽、便器の使い勝手など利用者の身体機能に合わせて安全かつ自立した生活を送れるようにしている。</p>		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホーム しらゆり竹田 2ユニット		
所在地	大分県竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	平成24年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は城下町竹田の中心地に位置し、歴史を肌で感じられる環境の中にあります。年間を通じて竹田ならではの、行事や催事が数多く行われており、それが入所の皆さんの楽しみの一つにもなっています。

家庭的な雰囲気の中、入所者様の心に寄り添い信頼しあえる関係作りを心がけて、生き甲斐と喜びを持って暮らしていただけるよう職員一同介護に取り組んでいます。

また、身体の残存機能を生かした体操やレクリエーションを取り入れ身体機能の低下を防ぐと同時に、食事面でも「美味しく健康に」をテーマに旬な食材を活用した手作り料理を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【1ユニット目に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は出来ているが、職員により実践にバラつきが見られる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の方と交流の機会を持てるよう、近所を散策し気軽に声を掛け合えるような環境づくりに努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所当時は認知症やグループホームに対する理解を得られなかったが、近隣の方々と接触の機会を持つことにより理解と協力を得られるようになってきた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き利用者の状況報告やグループホームの抱える問題点などを提起し、市の介護保険課、包括支援センター、老人クラブの方々よりアドバイス等をいただいている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の定例会議(ケア会議)に出席し、情報交換を行っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしない介護を心掛け実践している。但し、夜間は介護従事者が一人である為玄関の施錠をしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会議で虐待防止の意識づけを行っている。		

事業者名: グループホームしらゆり竹田 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会には設けていないが、成年後見制度を利用している入所者がいるため、必要に応じて相談、活用をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が不安を抱くことがないように、十分な説明と疑問に対する返答を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来た際、不安や要望を聞く機会を設けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で職員の意見や提案を収集、吟味し運営に活かしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が常にやり甲斐と向上心を持って働けるよう、勤務実績に応じ平等に評価している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、能力に応じた研修に積極的に参加するよう促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模連携事業により同業者との研修、交流会の実施が決定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と同じ目線に立ち一人の人格者として尊重し、ゆっくり聞き取り易い言葉かけて優しい雰囲気で見守っている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が安心して介護を任せられるよう、あらゆる相談、疑問に耳を傾け要望に応えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況等に応じ、通院、リハビリその他必要とおもわれるサービスの検討を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にできる範囲のことを手伝ってもらったり同じ目線で物を見たり、会話をしたり、ともに生活をしている実感を味わってもらえるようにしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の施設での生活状況等を家族に知らせ、職員と家族が共通した介護認識を持てるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、昔交流のあった方なども気軽に面会に来てもらえるよう配慮している。また利用者が生活していた場所、家などへ職員と一緒に同行している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握しトラブルを発生させないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族と連絡を取り合い、必要な助言、アドバイス等アフターフォローを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推しはかり本人にとってどこで誰とどのように暮らすのが最良なのか、家族を交えて検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を把握することがその方への理解につながる。本人をはじめ家族や地域の方の力を借りながら継続的に行っている。朝はその日の過ごし方や本人の状態を全員で確認している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じとり本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろのかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉エピソード等を記録している。職員の気づきや利用者の状態変化を個別に記録し職員の情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し個別の満足を高めるよう努力している。本人の状態や家族の意向に配慮しながら家族の方への食事の提供なども声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地球資源を把握し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診をしていただき、尚且つ体調異変等があった場合は電話にて状況を説明し医師の指示を仰いでいる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職全ての職員が利用者の状態を詳しく把握し、適切な受診が受けられるよう密に連絡を取り合っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が交替で訪問し、最善の治療や早期退院に向けた情報交換を医療機関と行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と何度も話し合い、利用者・家族の望む終末ケアが出来るようにしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の講習を受講し終了証の交付を受けている。月1回の会議時に事故、急変マニュアルの話し合いを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力を仰ぎ避難訓練を行ったり、マニュアルを作成し災害時の避難方法について職員全員が共通意識を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や能力を理解し尊重した対応をしている。その時その時の気持ちに応じて穏やかな声掛けをしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のやりたいこと、食べたい物、見たい物など、職員から押し付けることなく本人の意思を尊重するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活リズムを作り急がせることなくのんびりと施設での生活ができるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせて理、美容院の利用支援を行っている。外出時も職員が着替えを手伝い、新鮮な気持ちで出かけられるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事を同時に言葉を交わしながら食べている。また食欲が進むように色取りや盛り付けなど工夫を凝らしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や塩分に気を付け野菜を豊富に使ったメニューにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいを実施しており自分でできる方は見守り、出来ない方は職員のケアにより口腔衛生を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ使用の方に対しても、日中はリハビリパンツを使用しトイレ誘導を行い自立への意欲を起こさせるよう支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ繊維の多い食品を使った献立を考えている。定期的な排便がない方は、便秘薬を使用し排便調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ入浴回数や時間を決めリラックスして入浴してもらえるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠パターンを把握し夜眠れない人には一日の生活リズムを通し安眠策をとっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し間違いのないように注意して与薬している。医師の指示通り服用できるよう支援し、症状の変化があればその都度医師に相談をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが楽しみ事や出番を見いだせるよう場面づくりの支援を行っている。 (週刊誌、テレビ、絵描き、歌、洗濯物たたみ、お膳ふき、食材の下ごしらえ等)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、近隣訪問、町内行事への参加など希望に応じて出かけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者がいないためお金は施設が預かり、利用者の希望があれば職員と外出時に買い物等をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの申し出もなく、電話をしたり手紙のやり取りができる状態ではない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり壁面に季節感のある折り紙や装飾を施している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファなど気分に応じて好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じてテレビやラジカセを部屋に置き楽しめるようにしている。また昔のアルバム、写真などを部屋に置きいつでも見れるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの設置、浴槽、便器の使い勝手など利用者の身体機能に合わせて安全かつ自立した生活を送れるようにしている。		